



# れんけい

題字：松尾信彦書

## 院長就任のご挨拶

院長 河内 正光



このたび、太田吉夫前院長の後任として、2019年4月1日より院長を拝命いたしました。大変光栄に思いますと同時に、職責の重さに身の引き締まる思いです。

当院では日本人の死亡原因の上位を占めるがん、脳卒中、心臓病について、関連する複数の診療科・医療技術部門を一体化させたセンターを設置し、機能的な医療の提供に努めています。ハイブリッド手術室やロボット支援手術装置「ダヴィンチ」を使用した手術、カテーテルアブレーションによる不整脈治療、PET-CTによる診断や、高精度放射線治療装置「ノバリスTx」を用いた放射線治療など、高度先進医療を提供しています。一方、救急医療としては、2018年は救急車搬入患者3450名、ヘリによる救急搬送は60件と多数の利用があり、当院の基本理念である「香川県の中核病院として安全・安心な医療を提供し、県民や地域医療機関から信頼される病院」を目指して努力しております。

高度急性期医療を担う病院として、最重要な課題は、連携だと考えています。開業医の先生方から、ご紹介いただき、当院でしっかり高度急性期医療を提供させていただき、その後は、地域の病院へ転院、開業医の先生方へ逆紹介させていただくという連携をいかにスムーズに行うかがとても大切になっています。近くの病院、診療所への転院、逆紹介を推進しておりますので、医療関係の皆さんだけでなく、市民、県民の皆さんにもぜひご理解いただきたいと思っています。当院が今後とも、県の基幹病院として、県民の皆様や地域の医療機関に一層信頼される「県民医療最後の砦」の役割を果たせるよう取り組んでまいります。皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### information

## 最新のCTを導入しました

放射線部 前技師長 中元 仁

当院では、このたび最新のマルチスライスCT（RevolutionCT：256列）を導入し、平成31年1月7日から稼働を開始し、「がん、心疾患、脳血管疾患など高度医療、先進的な医療を重点的に取り組み、全国トップレベルの医療を提供する。」というビジョンのもと、質の高い医療をめざしています。

今回導入した最新のRevolutionCTは、1回転で16cmの範囲を撮影することができます。これにより、頭部、心臓、小児の領域で効果が期待されます。

息止め時間も短くなり、動きが早い心臓や止めるのが困難な小児においても、とても有効になります。

また、Dual Energy専用の低ノイズ画像再構成により、高画質化を実現し、ノイズの影響が懸念される低keV画像や各種密度画像の画質向上により、性状評価等新たなCTの可能性を広げています。

#### 〈主な性能〉

- ・全身ヘリカルアーチファクトゼロの高画質スキャン
- ・心臓CT全検査1心拍高画質検査の実現
- ・小児、成人全頭部高速高画質救急1回転撮影の実現
- ・160mmカバレッジCT値均一性による臓器Perfusion/4D検査



## 退職のご挨拶

前院長 太田 吉夫

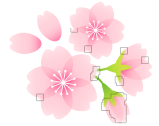


3月末をもちまして香川県立中央病院を退職いたしました。6年間という短い期間ではありましたが、皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

私は、1976年に岡山大学を卒業し麻酔科に入りました。高知県立中央病院の1年間、留学中の4年間を除けば、ほとんど岡山大学病院の手術室や集中治療部で働いてきました。1998年に岡山大学病院に医療情報部が設置されることになり、初代の医療情報部長（教授）に選任され、その後もずっと岡山大学病院で過ごしてきました。

2013年に、当時の香川県病院事業管理者の小出先生のお誘いにより、大学の定年を4年残し香川県立中央病院に赴任しました。最初の1年は塩田院長の下で副院長として、その後の5年間は院長として過ごしてきました。院長として人並みに仕事ができただろうか甚だ自信がありませんが、大きなトラブルも無く過ごすことができ安堵しています。香川の地は初めてであり、不安な思いで香川生活を始めましたが、やさしい職場の人達に囲まれて楽しく過ごすことができ、皆様には感謝の気持ちで一杯です。

6年間、ありがとうございました。



## 退職のご挨拶

前副院長兼看護部長 三村 真吏



3末日をもちまして、香川県立中央病院を退職いたしました。昭和55年に香川県職員として就職し、39年間にわたって皆様には大変お世話になりありがとうございました。

現在までに電子カルテ導入、新病院開院、病院機能評価受審、特定共同指導など多くの課題を乗り越え、地域の方たちとの地域医療連携に努めてまいりました。

さて、ここで看護部の歴史を振り返ります。まず、看護部年報についてですが、平成元年に当時の総婦長たちにより看護科年報が作成されました。また、看護研究発表は、昭和45年10月からはじまり、諸先輩方の知恵と努力の結晶が今日の看護部の支えとなっていることを強く感じています。

私が感じている皆様の素晴らしいところは、「真摯さ」です。「まじめで、ひたむきな姿」で仕事に取り組んでいる姿はとても尊敬できます。そのことが、地域の方たちの信頼を得ているのだと思います。

4月には、新たな職員を迎えます。様々などうにもならないことでも必死に取り組んでいる姿をよく見かけます。そういう一生懸命さがある方たちは後で伸びますので、見守ってください。

これからの皆様のご健勝とご活躍、本院のますますのご発展をお祈りいたしています。



### NEWS

## 2/1 健康セミナーを開催しました

皮膚・排泄ケア認定看護師 近石 昌子

2月1日（金）当院講堂において、「今さら聞けないスキンケア」と題して、認定・専門看護師主催の健康セミナーを開催しました。

今回は5回目、皮膚・排泄ケア認定看護師近石昌子、東山直美の2名で担当しました。

1. 皮膚の基礎知識、2. スキンケアの基本、3. 念入りなスキンケアが必要な皮膚（乾燥肌・おむつ皮膚炎・化学療法の皮膚障害）について、実技を交えながらセミナーを行いました。

参加者は一般37名、職員12名の計47名で、乾燥が気になる季節柄、多くの方にご参加いただきました。実際に保湿クリームを手塗ってみるなど、普段何気なく行っているスキンケア（洗浄・保湿・保護）を見直す良い機会になったと、御評価をいただきました。

今年は、5月「放っておくと怖い喫煙と高血圧」、7月「あなたの知らない手術室の世界」と、今後も認定・専門看護師が、健康についてわかりやすくお話ししていく予定です。

是非ご参加ください。



## NEWS

## 1/19、20 DMAT研修を行いました

業務課 山下 剛史

本県唯一の基幹災害拠点病院である当院で、県からの委託事業として、大地震等の大規模災害発生時の医療救護体制の強化のために、都道府県 DMAT 研修（香川 DMAT 研修）を開催いたしました。

香川 DMAT 研修は、厚生労働省で実施している日本 DMAT 隊員養成研修に準拠したプログラムであり、2日間で災害医療の総論から活動の流れ、トリアージ（負傷者選別）等の実技を学びます。

今回の研修では県内の災害拠点病院7病院から医師6名、看護師15名、業務調整員7名の合計28名の受講生が参加し、県内外の日本 DMAT インストラクター隊員が講師を勤め研修を行いました。受講生は「DMAT の意義」「災害医療対応の原則」などの11の講義と、「トリアージ」「現場救護所での医療」などの8つの実習を受け、普段とは違う災害時の考え方を学び、28名全員が無事研修を終了し香川県から修了書を授与されました。

大規模災害が発生した際は、DMAT の存在は大きな力となりますので、香川県としては今後も本研修を実施していき、地域を守る DMAT 隊員の養成を行っていく予定です。



## NEWS

## 盲導犬に関する研修を行いました

業務課 近藤 歩



3月4日（月）に県立病院の職員を対象として、香川県視覚障害者福祉センターのご協力のもと、盲導犬ユーザーの藤川様、谷本様にお越しいただき、「盲導犬に関する研修」を行いました。

研修では、盲導犬に関することや、視覚障害者の方がどうすれば安全に、安心してご来院いただけるかということについてお話いただきました。

研修のなかでユーザーの方から、「盲導犬は体の一部であり、常に同伴していたい。しかし、犬アレルギーの方がいるなど、問題があれば離れて待機させることもできるので、まずは相談してほしい。」「盲導犬がいても周囲の様子が分からないと不安なので、職員からの情報提供をお願いしたい」などのご発言がありました。

県立病院は公共施設ですので、「身体障害者補助犬法」により盲導犬などのほじょ犬を受け入れる義務があります。今回の研修を参考に、盲導犬ユーザーの方にも安心してご来院いただけるよう、知識を深め、適切に対応できるよう職員一同で準備してまいります。

## ～盲導犬について～

- 盲導犬とは、視覚障害者の方をサポートするために特別な訓練を受けたほじょ犬の一種で、他には、聴導犬・介助犬といったほじょ犬がいます。県内で現在活動しているのはこのうち盲導犬のみです。
- 盲導犬にはハーネス等がついており、見ればすぐに盲導犬と分かるようになっています。
- 盲導犬の衛生管理と健康管理はユーザーの義務となっており、衛生面の管理は万全です。
- ユーザーに同伴中の盲導犬は工作中ですので、ユーザーの許可なく触ったり、声をかけたり、見つめたりしてはいけません。



# 臨床工学のはなし ~臨床工学技士という名前~ 臨床工学部 技師長 山下 和良

臨床工学技士・・・この名前は広すぎて、具体的には何をする“技士”なのかわかりにくいと思います。実際、この臨床工学技士の名前は、世間一般の認知度において、他の医療従事者に比べ比較的低いようです。これは、臨床工学技士の主たる業務である生命維持管理装置の操作が、院内でも一般の立ち入りが禁止されているエリアで行われていることが大きな理由と思われる。多くの人が出入りする外来部門で働く臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士などとは対照的です。



しかし、“臨床工学技士”そこには“工学と医療の知識をもって、医療に貢献する医療従事者”という広大な意味が込められています。実際、臨床工学技士の仕事は手術室、ICU、CCU、心カテ室、腎センターでの生命維持管理装置の操作、診断や治療の支援、また院内医療機器の保守点検、医療ガス設備の管理などその守備範囲は広がっています。

現在当院では、15名の若い臨床工学技士が自分の持つ目一杯の知識(もちろん医学と工学です)を最大限に活かして日々の業務に取り組んでいます。機械というデバイスを通してはいますが、その先にいる患者さんをよく見て、機械と人間それぞれに合わせた医療機器を選択し安全に操作、管理することを実践しています。

## コラム お通じにまつわるうんちく話(その7)

消化器内科 部長 田中 盛富

古代ギリシャの哲学者は、物事の「本質」について思索を重ねていました。「本質」とは、その物を成り立たせているもの、あるいは不変の性質という意味です。

古代ギリシャの哲学者がうんちの本質について深く考察をしていたかどうかは、わかりませんが、うんちの本質とは何でしょうか。

科学の進歩により、うんちの成分を詳しく調べることができ、さらにその成果をインターネットで簡単に知ることができるようになりました。その成分とは、おおまかに70%くらいが水分、腸内細菌と腸の古い細胞が十数%ずつ、残りの数%が食べ物の残りかすなのだそう。なんと、うんちの中は、水分が大部分であり、食べ物の残りかすより、腸内細菌のほうが重いのです。ちなみに、ふつうに食べているのに食べた量にみあう便が出ず、おなかにたくさん便がたまっているのではないかと心配される方がおられます。しかし実際に調べてみても便はあまりおなかにないこともあります。便の大半は水分ですので、水分の加減や食事内容によって便が思ったより少ないだけなのだと思います。

以前、腸内細菌は、食物繊維を利用して発酵を行うというお話をしましたが、うんちは、たくさんの腸内細菌が腸の中で頑張って働いた証拠です。というわけで、うんちの「本質」とは、単なる排泄物ではなく、腸内細菌が発酵という過程を通して、私たちの体によい影響を与えた結果の成果物と言えるのかもしれない。



次回も腸内細菌とうんちの関係についてお話したいと思います。

## 技師長が退職しました

- 加村 晴美 (栄養部)
- 中元 仁 (放射線部)
- 内田 正美 (検査部)
- 安岐 桂子 (リハビリテーション部)

## 医師の人事異動

### 転出

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p><b>[1月31日付]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 合田 かおる (麻酔科)</li> </ul> <p><b>[3月31日付]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 松枝 真由 (消化器内科)</li> <li>● コルビン 真梨子 (消化器内科)</li> <li>● 田村 瑤子 (腎臓・膠原病内科)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高津 史明 (消化器・一般外科)</li> <li>● 八木 朝彦 (消化器・一般外科)</li> <li>● 坂本 あすな (消化器・一般外科)</li> <li>● 吉川 武志 (呼吸器外科)</li> <li>● 長野 博志 (整形外科)</li> <li>● 岩本 勇樹 (整形外科)</li> <li>● 岩本 康平 (整形外科)</li> <li>● 濱田 龍正 (形成外科)</li> <li>● 藤田 治 (泌尿器科)</li> <li>● 西川 大祐 (泌尿器科)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 川口 菜奈 (小児科)</li> <li>● 住友 裕美 (小児科)</li> <li>● 北山 貴裕 (放射線科)</li> <li>● 大岩 雅彦 (麻酔科)</li> <li>● 川名 康仁 (研修医)</li> <li>● 藤本 沙里 (研修医)</li> <li>● 山下 光 (研修医)</li> <li>● 山本 まり恵 (研修医)</li> <li>● 大川 純平 (研修医)</li> <li>● 谷口 統 (研修医)</li> </ul> |
|--|---|--|